

令和4年度 学校自己評価システムシート（さいたま市立与野東中学校）

学校番号 245

【様式】

目指す学校像	誰からも愛され、誇れる学校 「学べてよかったです」…生徒 「通わせてよかったです」…地域や保護者 「勤務してよかったです」…教職員
重 点 目 標	1 確かな学力の定着と向上に迫る「わかる・楽しい」授業の展開 2 安心・安全で潤いのある教育環境づくりの一層の推進 3 コミュニティ・スクールによる連携強化、情報発信の充実 4 教職員の資質向上及びワーク・ライフ・バランスの充実

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価
年 度 目 標				年 度 評 価			実施日令和5年2月17日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査では、国語・数学・理科ともに全国平均を上回っており良好な結果である。 ○学校評価アンケート「授業の内容の理解」に関する項目では、肯定的な意見が95.1%、同保護者アンケートでは同項目で肯定的な意見が79.3%となっている。 (課題) ○学力は全体的に高い水準を示しているが、個別に支援が必要な生徒が数名いる。 ○全体的に生徒一人ひとりの自己肯定感が低く、自らが主体的に学習や活動するという点においては、課題である。	・「個別最適な学び」の推進 ・教科横断型の「探究的な学び」の実践	①GIGAスクール構想にかかわり、与野東中学校としてのスタンダードを確立する。 ②本年度導入されたスタディ・サプリを学校及び家庭において活用し、特に家庭学習の充実を図る。 ①STEAMS教育については、作成したカリキュラムの検証を行う。 ②SDGs教育については、PRシートを確実に実践する。また、見直しを行い、学習に結び付くカリキュラムを作成する。	①毎日の授業でタブレット端末を活用することができたか。 ②学校及び家庭において、スタディ・サプリを活用した学習に取り組むことができたか。 ①「STEAMS TIME」をカリキュラム通りに実施することができたか。 ②SDGs教育のPRシートを確実に実践することができたか。また、見直しを行い、学習に結び付くカリキュラムを作成することができたか。	○授業においてタブレット端末を使用することが日常的なようになった。ただし、全国学力調査の意識調査では、タブレットの活用度について、市平均より低い結果となつたが、毎日使用している様子は確認している。 ○スタディ・サプリの活用については、教員に偏りがあるものの、主に復習や自習の時に活用し、生徒も積極的に活用することができた。 ○「STEAMS TIME」にかかる校内研修を夏季休業中に実施することができた。全学年が総合的な学習の時間を活用して取り組むことができた。 ○SDGs教育を各教科の年間指導計画に位置付け授業をするとともに、PRシートについては教育と地域に関わる内容を組み込んだ。	B	★タブレット端末の故障が多く、修理に時間がかかった。破損等を防止する指導とともに、破損等した場合は迅速に手続きができるよう、再度校務分掌の役割を確認する必要がある。 ★学習に生かすための工夫を議論し、効果的に活用できるようにする。 ★今年度については、計画通りに実践することに重点を置いたため、来年度は反省等を生かしてカリキュラムの改定を行う。 ★SDGs教育のPRシートについて、実践し検証していく必要がある。
2	(現状) ○安全点検実施結果に対して、確実に対応する体制を整えている。 学校評価では、「積極的な環境美化への取組」について、肯定的な意見が、生徒96.4%、保護者93.7%であった。 ○生徒は全体的に落ちている。朝の挨拶については、地域の方々からの評価と教職員からの評価に差がある。 (課題) ○「心と生活のアンケート」等に心の不安定さが表れる生徒が学級の1割はある。 ○校舎が古く老朽化しており、施設設備の故障が多い。	・生徒の教育活動を支援するための組織的な対応 ・教育環境の充実	①生徒に関わる課題については、「チーム学年」で対応し学年主任を中心に「事実の確認→生徒への適切な指導→保護者への連絡」を迅速かつ確実に行う。 ②生徒指導・教育相談に関わる情報交換を週1回行う。 ③生徒の学びを止めないために、欠席者については、オンライン授業等で学習のフォローを行う。 ①校舎の状況を確認するために、毎日校内巡回をし、問題が見つかった場合は、関係機関と相談をし、学校でできることは迅速に行う。	①生徒の課題を覚知した際、その日のうちに解決することができたか。 ②生徒指導・教育相談に関わる諸課題について、学年や関係機関等と連携して対応することができたか。 ③希望者に対して、オンライン授業を実施することができたか。 ①問題が見つかった場合、関係機関と相談して進めていくか、学校で対応することができたか。	○生徒に関わる問題が生じた時は、学年主任や生徒指導担当が中心となって、その日のうちに事実確認と指導をし、保護者に連絡することができた。 ○毎週生徒指導・教育相談の各委員会を確実に行うとともに、諸問題について担当学年とさわやか相談員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携が密に行えた。管理職は、児童相談所や警察、支援課等との連携が図れた。 ○希望者には積極的にオンライン授業を行い、日常的にハイブリッド授業を行うことができた。 ○意図的、計画的に点検をし、問題点が見つかった時は迅速に関係機関と連携した。また、事務職員と密に連携を図り、学校予算で業者に依頼したり用務員に修繕を依頼したりした。	A	★生徒の様子は変化していくため、問題が生じる前に、小さな変化を見逃さず、積極的に面談等を行い、問題の早期発見に努める。 ★定例会については、事案の報告で終わってしまう傾向にあるため、具体的な支援策等が話し合えるように工夫する必要がある。 ★不登校生徒や心が不安定な生徒については、一層のさわやか相談員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携が必要である。 ★再来年度に改修工事を予定している。来年度は、具体的な工事計画を立てたため、改修工事中にスムーズに教育活動が行えるよう計画していく。
3	(現状) ○昨年度は、コミュニティ・スクール準備校として、生徒に育成させたい力について熟議をし、作成した。今年度は、実施校として具体的な取組を決めていく。 ○地域や保護者に対して、活発に情報提供を行うために電子化をすすめているところである。 (課題) ○学校運営協議会での話し合う議題は設定しているが、具体的な熟議や活動については、まだなされていない。 ○学校HPは、適宜更新することができていない。	・コミュニティ・スクールによる学校、家庭、地域との連携強化 ・デジタル・トランクションの推進	①今年度コミュニティ・スクールで取り組む「地域の支援に感謝をし、自らを律し、一生懸命取り組む生徒」について、熟議で具体的な方策を探り、実践する。 ①今後、学校だより等の定期的な配付物をはじめ、文書形式のものについては、学校HPに掲載し、掲載時には、保護者への周知を行う。 ②生徒の欠席連絡については、FOMSを活用する。	①学校運営協議会の熟議でテーマにかかわる具体的な方策が決めることができたか。 ②具体的な方策が実践することができたか。 ①紙媒体での配布を必要最低限とし、電子媒体による情報提供ができたか。 ②欠席連絡について、欠席連絡をFOMSに一本化することができたか。	○今年度は、「地域の皆様の温かな支援に感謝する」ために、どのような方策が考えられるかを熟議した。 ○熟議の結果を来年度の行事計画に入れ生徒が地域にできることの年間計画を立てた。 ○安心メールを活用し、タイムリーな情報発信を行った結果、学校評価の保護者アンケートの肯定的な意見が92.1%だった。 ○欠席連絡をFOMEの運用で円滑に行うとともに、毎日の体温記録を生徒がタブレットで記録することができた。	A	★今年度、計画した行事について実践し検証する必要がある。 ★来年度は、保護者の文書等をHPに掲載するなど、電子化を進めていきたい。また、HPの内容も定期的に更新し、常に新しい情報を発信していく。
4	(現状) ○若い教職員が多く、タブレット等のICT機器の操作の習得が早い。 ○学校評価教職員アンケートの、「職員の勤務時間の意識」についての項目では、肯定的な意見が67.6%となった。 (課題) ○授業において従来から「課題を意識し、解決する学習」のための指導法を大切にし、タブレットが目的にならないようにする。 ○職員が見通しをもって業務に当たれるようにし、計画的を立てることが必要である。	・生徒の「主体的・対話的で深い学び」を推進するための指導力の向上 ・職員の計画的な業務	①問題解決型学習において、本時の目標に特化したまとめと振り返りをする授業を全員ができるようにする。 ②毎日、校内巡回をする際、授業を参観し、必要に応じて指導をする。 ①週1回のノーギャップデータを各自で設定するよう指導する。 ②毎日、職員に声をかけ、必要に応じて指導・助言を行う。	①問題解決型学習において、本時の目標に特化したまとめと振り返りをする板書ができるか。 ①週1回のノーギャップデータを各自で設定し、実行することができたか。	○問題解決型学習については、どの教職員も授業の目標を意識して取り組むことができた。 ○授業の終末における振り返りについては、手で書くかタブレットに入力する時間を確保し、凡そ達成することができた。 ○プロジェクターの設置により、黒板に映像を映すことが多くなってきたが、板書計画を立て計画的に展開することができた。 ○昨年度と比較して、今年度は全体的に在校時間が学校平均20時間減少する結果となった。 ○週1回のノーギャップデータについては、全教職員が行なったことはなかったが、意識をした業務を行なった。 ○電子データによる職員会議等を行い、ペーパーレスで会議を実施した。	A	★来年度も継続的に取り組む必要がある。授業の終末における振り返りについては、全体共有するまでの時間確保に取り組みたいと考える。 ★在校時間については、全体的に解消したが、一人ひとりを見ると課題がある。一層の声掛けをしていく必要がある。
						B	・小学校では、会議の在り方にについて工夫をしながら行っていることである。 ・教室に設置しているプロジェクターを有効活用できている。 ・教職員の勤務の体制については、改善もできており良いのではないか。

